

● 最近の県内経済

基調判断

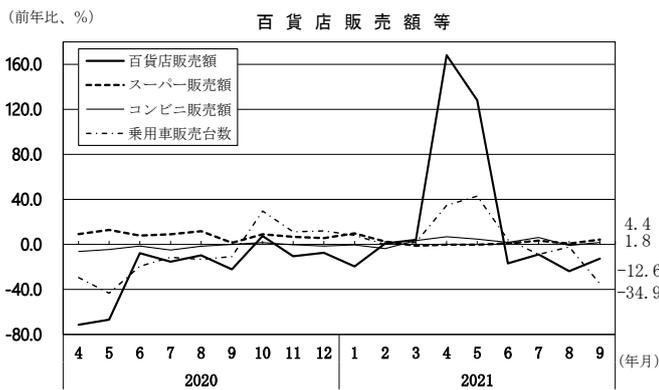
(2021年9月を中心として)



今月の概要

県内景気は、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられるなど、依然として厳しい状況にある。

1 個人消費 持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる



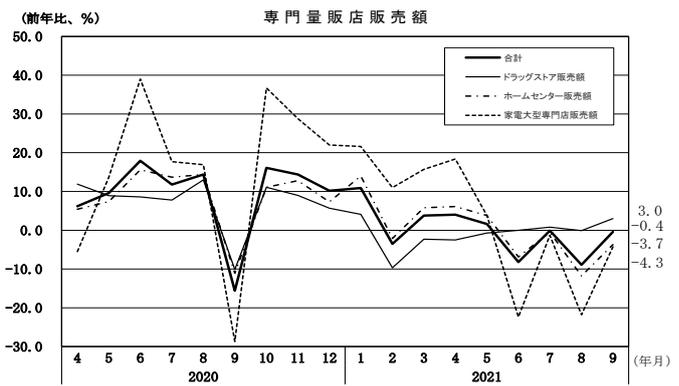
(資料) 経済産業省、埼玉県自動車販売協会など

個人消費は、2021年入り後、持ち直しの動きが続いているが、8-9月は、緊急事態宣言を受けて、飲食・サービス・イベント関連を中心に低迷したとみられる。

9月の百貨店およびスーパーの販売額（店舗調整前）は、百貨店が107億円で前年比12.6%減（4か月連続の減少）、スーパーは964億円で同4.4%増（4か月連続の増加）となった。また、コンビニ販売も543億円で同1.8%増と、2か月ぶりの増加となった。

乗用車販売は、前年比34.9%減と3か月連続の減少となった。内訳をみると、普通車（同28.6%減）は12か月ぶりの減少となったほか、小型車（同41.6%減）、軽乗用車（同36.9%減）は、いずれも4か月連続の減少となった。

スーパーやコンビニにおいては、引き続き巣ごもり需要が堅調に推移した一方で、天候不良の影響による生鮮品の高騰、買物頻度の低下などの影響を受けた。

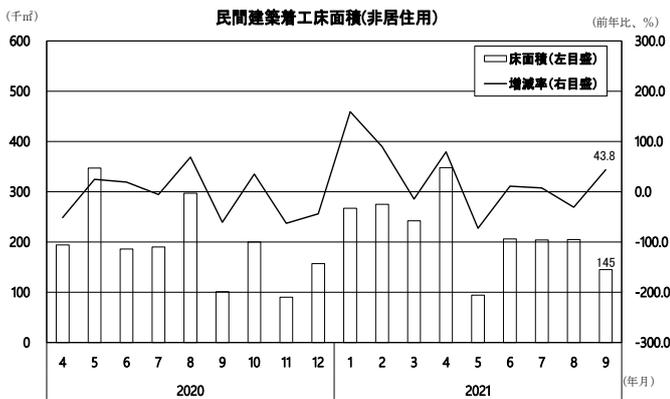


(資料) 経済産業省

9月の専門量販店販売額は、696億円で前年比0.4%減となった。内訳をみると家電大型専門店が160億円で同4.3%減（4か月連続の減少）、ドラッグストアが368億円で同3.0%増（2か月ぶりの増加）、ホームセンターが168億円で同3.7%減（4か月連続の減少）となった。

関東1都6県の消費者態度指数（原数値）は、8月〈36.5〉、9月〈38.5〉、10月〈40.2〉で推移している。

2 設備投資 持ち直しの動きがみられる

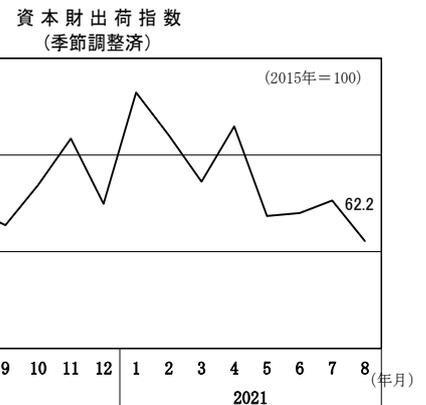


(資料)国土交通省

米国、中国などの景気拡大を受けた輸出の増加や、旺盛な半導体関連需要を受けて、製造業で投資意欲が活性化しているほか、昨年コロナ禍で見送りの案件の実行も幅広い業種で見られる。

9月の民間建築着工床面積(非居住用)は、145千㎡で前年比43.8%増となった(5か月後方移動平均では前年比23.7%減)。

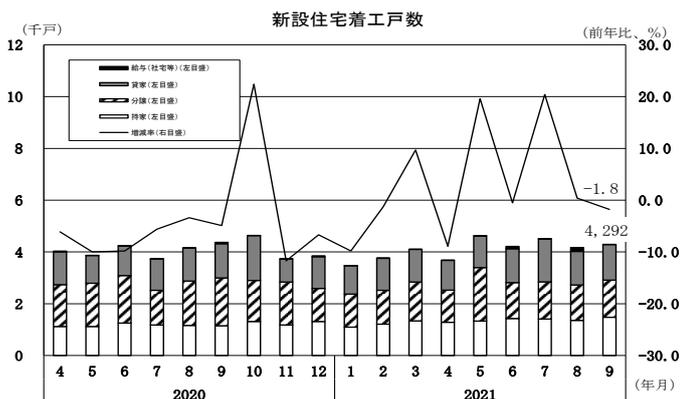
用途別にみると、工場及び作業場、学校の校舎は減少したものの、事務所、店舗、倉庫、病院・診療所はいずれも増加した。



(資料)埼玉県

8月の資本財出荷指数(季節調整済)は62.2で、前月比11.9%減と3か月ぶりの減少となった(5か月後方移動平均では、前年比2.5%減)。

3 住宅建設 持ち直している

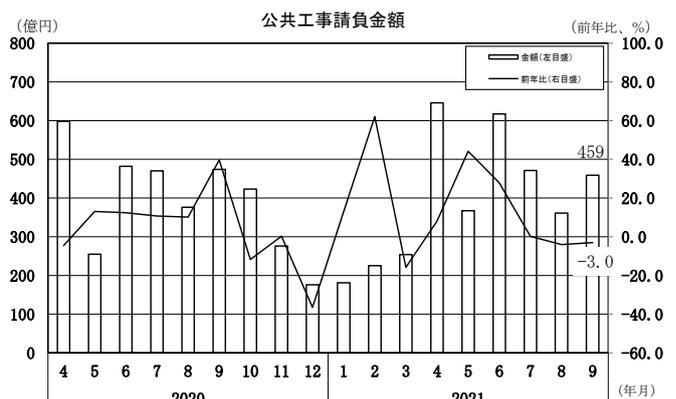


(資料)国土交通省

コロナ禍で低調だった昨年の反動増に加え、郊外で広い家を求める動きもあって、本年入り後持ち直している。

9月の新設住宅着工戸数は、4,292戸で前年比1.8%減と3か月ぶりの減少となった(5か月後方移動平均では、7.0%増)。利用関係別にみると、持家(1,479戸)が同28.7%増、貸家(1,371戸)が同3.6%増、分譲一戸建(1,142戸)が同28.0%増となったものの、分譲マンション(286戸)が同70.0%減となった。

4 公共工事 増加基調

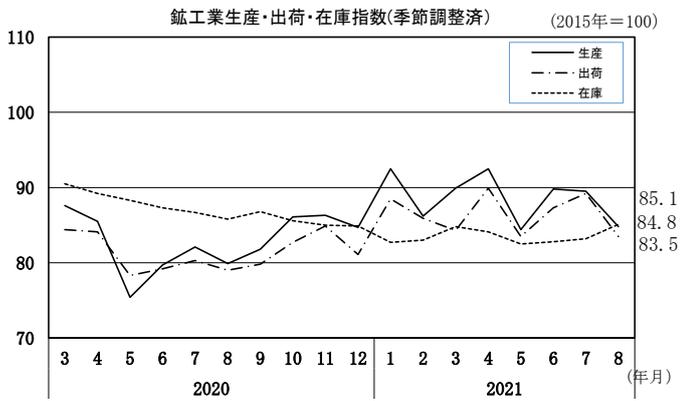


(資料)東日本建設業保証株式会社

政府の2020年度補正予算における公共事業関係費の大幅上積みなどを受けて、増加基調にある。

9月の公共工事請負額は、459億円で前年比3.0%減となった(5か月後方移動平均では前年比10.6%増)。発注者別でみると、独立行政法人等、都道府県、市区町村は増加したものの、国、地方公社はいずれも減少した。

5 生産活動 持ち直しに足踏みがみられる



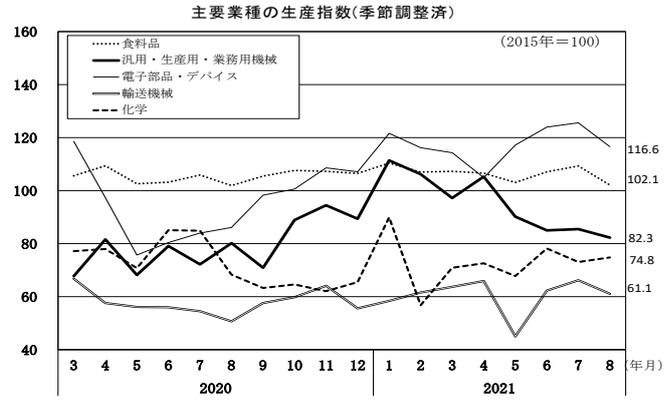
(資料)埼玉県

中国の景気減速を受けた輸出の鈍化や半導体不足を受けた自動車の減産の影響を受けて、持ち直しに足踏みがみられる。

8月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、84.8で前月比5.3%低下(2か月連続の低下)(5か月移動平均では88.2、前月比1.1%低下)。業務用機械(医療用機械器具、試験機)、プラスチック製品(プラスチック製容器、発泡プラスチック製品)などが上昇したが、情報通信機械(カーナビゲーション、カーオーディオ)、生産用機械(半導体製造装置、包装・荷造機械)などが低下した。

出荷指数(同)は、83.5で同6.4%低下(3か月ぶりの低下)。業務用機械(医療用機械器具、試験機)、ゴム製品(工業用ゴム製品、ゴムホース)などが上昇したが、生産用機械(半導体製造装置、食料品加工機械)、輸送機械(乗用車、自動車エンジン)などが低下した。

在庫指数(同)は、85.1で同2.3%上昇した(3か月連続の上昇)。食料品(精米)、非鉄金属(伸銅製品、銅電線)などが低下したが、輸送機械(乗用車)、生産用機械(マシニングセンタ、整地機械)などが上昇した。



(資料)埼玉県

◆ 食料品の生産指数(季節調整済)は、102.1で前月比6.6%低下し、3か月ぶりの低下となった。

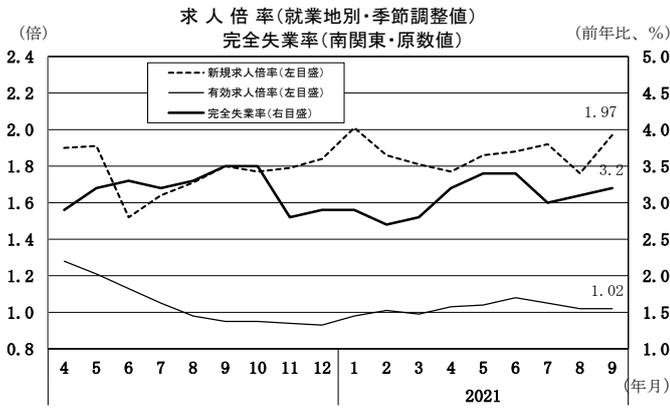
◆ 汎用・生産用・業務用機械(同)は、82.3で同3.7%低下し、2か月ぶりの低下となった。

◆ 電子部品・デバイス(同)は、116.6で同7.2%低下し、4か月ぶりの低下となった。

◆ 輸送機械(同)は、61.1で同7.7%低下し、2か月ぶりの低下となった。

◆ 化学(同)は、74.8で同2.3%上昇し、2か月ぶりの上昇となった。

6 雇用情勢 弱い動き



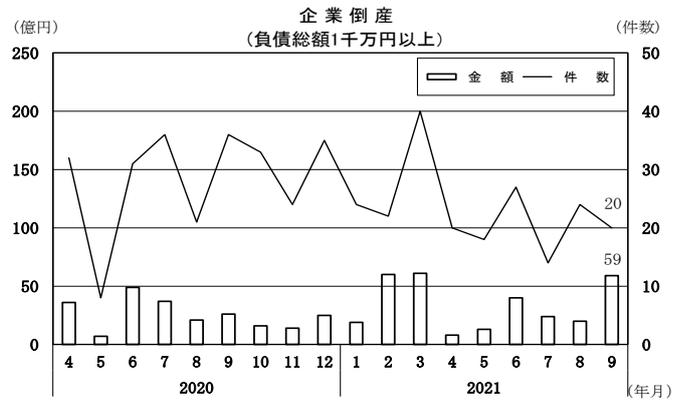
(資料)厚生労働省、総務省

昨年のコロナ感染拡大に伴い、対面型サービスを中心に経済活動が抑制された影響から、弱い動きが続いている。

9月の有効求人倍率(就業地別、季節調整済)は、1.02倍で前月比横ばいとなった。また、新規求人倍率(同)は、1.97倍で同比0.21ポイント上昇した(2か月ぶりの上昇)。

完全失業率(南関東、原数値)は、3.2%で前年同月比0.3ポイント低下した(前年同月比3か月連続の低下)。

7 企業倒産 一進一退



(資料)帝国データバンク

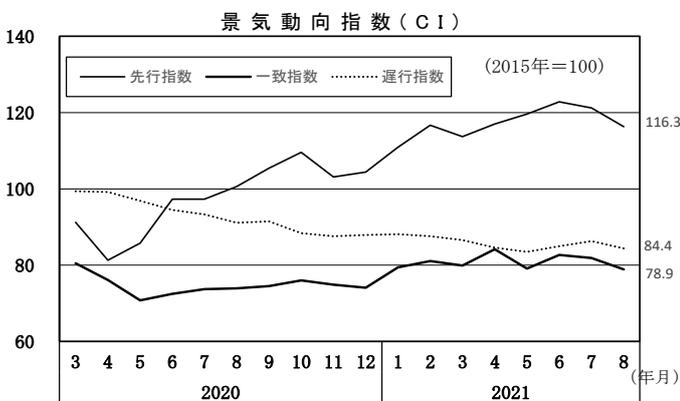
コロナ対策としての政府の資金繰り支援策もあって、低水準で推移している。

9月の企業倒産件数は、20件で前年同月比16件の減少となった。負債総額は59億円で同33億円の増加となった(5か月後方移動平均では、件数は前年比22.0%減、金額は11.5%増)。

業種別にみると、建設業が6件で最も多く、次いでサービス業が5件、卸売業が4件、小売業3件と続いている。主因別では、販売不振が16件となっている。

〈参考〉

景気動向指数(CI) 改善を示している



(資料)埼玉県

8月のCI一致指数(景気の現状を示す)は、78.9で前月比3.0ポイント低下し、2か月連続の低下となった。

CI先行指数(景気の数か月先を示す)は、116.3で同4.9ポイント低下し、2か月連続の低下となった。

CI遅行指数(景気に遅れて反応する)は、84.4で同1.9ポイント低下し、3か月ぶりの低下となった。